

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795900261		
法人名	アミコ株式会社		
事業所名	アミコ愛・あい・東加賀屋		
所在地	大阪府大阪市住之江区東加賀屋1丁目11番15号		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町村受理日	令和3年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2795900261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症症状によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境のもとで、心身の特性を踏まえ、利用者の認知症状の緩和や悪化の防止を図り、尊厳ある自立した日常生活を営むことができるよう、食事、入浴、排泄等の日常生活場面での世話や機能訓練の介護その他必要な援助を行うものである。また、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるものとする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所後一年が過ぎた当該ホームは開所時に職員間で考えた「安心」「自立支援」「笑顔」との理念を掲げ、職員は日々意見を言いやすい雰囲気があり利用者の安心して過ごせる環境作りや個々の利用者の力を発揮して暮らせるよう排泄支援の際も待つことや何が出来るかを見極めながら意見や提案が出され申し送りや会議で話し合い支援に繋がっています。また家族との関係性を大切にしコロナ禍になってからの入居であり、電話連絡を密にし法人の広報誌や毎月写真と手紙を送り利用者の様子を伝え、感染症の状況をみながらガラス越しや距離をあけて面会してもらう等工夫をしています。利用者との会話から食べたいものが聞かれた時にはホームでどら焼きを作ったり和菓子を買いに行ったり外出ができない中室内でのレクリエーションを行う等生活が楽しめるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心」・「自立支援」・「笑顔」の理念に対し、概ね提供出来ています。ですが、自立支援については職員の対応差があります。	開所時に職員間で話し合い作成されたホーム独自の理念は事務所に掲示し、新しく入職した職員にも理念について伝え浸透するよう努めています。日々一人ひとりの利用者のできることを職員で話し合い自立した暮らしに向け支援する等、理念に繋がるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現状、コロナウイルス感染症により新規オープン後交流はありません。	コロナ禍になり開所したため、開所前説明会を地域の方に向けて行いましたが地域の方との交流には至っていません。運営推進会議の際に自治会長にホームの状況を伝え意見を聞いています。感染症収束後地域行事への参加やボランティアの受け入れを考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご見学者や、訪問者に対して自社新聞をお渡ししています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の為、書面で実施しております。意見を取り入れ、改善出来たことが増えています。	運営推進会議は書面会議で2か月に1回書面開催しています。町会長や家族代表、地域包括支援センター職員にホームの行事や利用者状況、職員状況、研修等の情報を書面で報告し、意見を聞いています。意見を受けて薬の錠数表を作成し服薬を確実にできるよう改善する等、できることから速やかに運営に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組めていません。	区の担当者とは主に電話で連絡を取りわからないことを聞いたり相談しています。行政から感染症予防等の注意喚起はファックスや郵送で届き職員に周知し、アンケートに答えたり手袋やマスクが届いたこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解に関しては、スピーチロックが見受けられた為、会議により改善途上です。現況施設4階建ての4階で運営しており、エレベーターはボタンロックを掛けています。	身体拘束や虐待防止の研修を行い、また2か月毎に身体拘束適正化委員会を行っています。日々行動を止めてしまうような言葉かけに注意を払っていますが、不適切な対応があれば都度注意し、会議でも具体的に身体拘束に繋がるような対応を伝えています。外に行きたい様子があれば寄り添い話を聞くようにし玄関前に椅子を出して過ごすこともあり、拘束感の無いよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じて、理解途上です。。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉を選択し、理解を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状、機会を提供できていません。	利用者の要望は日々の会話の中で聞き、特におやつ希望が聞かれることが多くホームでどら焼きを作ったり和菓子を買に行く等反映しています。家族には6か月毎に法人の広報誌と毎月写真と手紙を送り利用者の様子を伝え、電話や来訪時に意見や要望を聞いています。面会についての要望が多く、感染症の状況をみながらガラス越しや距離をあけて面会してもらったり、タブレットの購入に繋がリリモート面会も考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議を設けてます。日々の申し送りにおいて、機会を設けています。	職員は日々意見を言いやすい雰囲気があり、意見や提案が出された時には申し送りで話し合ったり毎月行う会議の議題にして意見を出し合い決めています。休憩時間の取り方や掃除等の業務改善等の意見が出されたり、リネンや食事等の担当を決めて役割を担ってもらい運営に活かしています。開所6か月目に個人面談を行い個別に意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	極力、職員に添っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症により、取り組めていません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時に、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に、努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の個人差は、あります。フラットにすることが目標です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、電話ではありますが取り組んでいます。入居時には、短時間ではありますが取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時、対応しております。	コロナ禍になってからの開所のため、馴染みの場所に出かけたり、面会に来てもらうことは難しい状況です。利用者が行っていた店でその方の代わりに買い物に行き近況を伝えたり、遠方の友人が月に1度電話をかけてくれ取り次ぎ会話を楽しむ方もいます。また年賀状や手紙が届き懐かしんでいる方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の、個性を大切にし関りを持てるように取り組んでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、退居1名おられますがフォローの結果当施設のDSを利用頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	取り組んでいます。困難な面は極力希望に添えるよう検討しています。	入居前に本人や家族と面談したり、利用していた施設や担当ケアマネジャー等から情報を得ており、生活歴や趣味嗜好、一日の過ごし方等の情報から思いや意向の把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中の会話や言動を観て気付いたことを個人申し送り表にも記録し情報共有し、ケア会議等で把握困難な方の思いも汲み取れるよう本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回は、カンファレンスを実施しています。変化に応じて柔軟に対応しています。	本人や家族の思い、アセスメントを基にサービス担当者会議を行い介護計画を作成し3か月毎にモニタリング評価を行い見直しています。見直しに当たっては再アセスメントを行い、家族の意向を確認し往診時の医師の意見や薬剤師への照会等必要な意見を得てサービス担当者会議を行っています。毎月行うケア会議で変化を把握し必要に応じて随時見直すこともあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	取り組んでいます。職員の個性があるので、意見がぶつかることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様を尊重し、「その人らしさ」を重視しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の為、活かせておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	取り組んでいます。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明していますが、現在はホームの協力医の往診を全員が受けています。往診はその方の状況に合わせて月に1～2回受け、24時間連携体制で体調不良時には協力病院の訪問診療科の看護師と連携をとり対応しています。週に1度訪問看護師による健康管理や必要に応じて訪問歯科による治療を受けています。耳鼻科や眼科等の専門医へは家族との受信が基本となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	仮定の話は、実施できています。	入居時に終末期や看取り支援の対応に関する指針にそって家族に説明しています。まだ事例はありませんが、重度化した場合には家族や医師、職員と話し合い選択肢を説明しながら方針を決めて支援する予定です。定期的な看取り支援についての研修を行い、また支援時に個別の状況に応じた勉強会を行いたいと管変えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には、実施できていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	取り組んでいます。	年に2回行う消防訓練は昼夜を想定し、内1回は消防署の立ち会いを依頼し実施しています。通報や初期消火、利用者にもベランダまで移動してもらい避難誘導の訓練を行い、3日分の水や食料、カセットコンロやランタン等を備蓄しています。	コロナ禍になり地域との協力体制の構築が難しい状況ですが、運営推進会議の際に働きかけたり収束後には共に話し合い相互の協力体制について話し合われてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	課題としていますが、改善の余地あります。	接遇マナーや認知症ケア、虐待防止等の研修を行い、利用者の尊厳を守りプライバシーを大切にされた対応について職員は学んでいます。丁寧語を基本とし目上の方であることを意識した対応を心がけ、個々の関係性を大切にし利用者の希望を聞きながら関わっています。不適切な対応があれば都度や申し送り等で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	課題としていますが、改善の余地あります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	取り組んでいます。ですが、経済的格差はあるので限度があります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症防止の為、実施できておりません。	昼食と夕食は業者の献立にそって食材が届き、朝食は職員で考え買い物に行き食事作りをしています。おせち料理や七草粥、恵方巻など季節行事に合わせた食事を提供し、状況によってはおせち料理を買い足し提供することもあります。ホットケーキやどら焼き等おやつを手作りすることもあります。今後寿司やピザなどのテイクアウト等も検討しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施できています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	取り組んでいます。	排泄が自立している利用者も多く、支援の必要な方は日々の個別記録から排泄パターンを把握し、仕草等も観察ながらその人のタイミングでトイレに行けるように支援しています。下着の上げ下げもできるかどうかを見極めできないことを支援し、日々の個々に合った支援の結果パッド等の使用が減ったり布の下着で過ごせるようになる方もおり、自立支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	実施できておりません。	入浴は週に2回日中の時間帯で基本的な曜日を決めており、一人ずつ湯を入れ替えゆっくり会話を楽しみながら入ってもらっています。希望に応じて夕食後の入浴を支援したことがあり、また拒否する方はおらずその日の体調で翌日の入浴に変更することもあり、臨機応変に対応しています。ゆず湯やしょうぶ湯等の季節湯や好みのシャンプーを持参する方もおり入浴を楽しんでもらうよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実施できています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の為、実施できておりません。	コロナ禍においては外出支援は行っておらず、ベランダに出たり天気の良い日には玄関先にベンチを出して順番に外気浴をする等、できることで外気に触れ気分転換が図れるよう支援しています。感染症の流行状況に合わせて外出支援検討していきたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルス感染症の為、実施できておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施できています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できています。	広い共有空間は利用者の声を聞いたり、動線を考えながらテーブルの配置を行い、食卓の他にテレビ前にソファを置き少人数で寛いで過ごせる場所も作っています。クリスマスツリーやしめ縄等の季節行事に合わせた飾りつけや折り紙でひな人形などを折り壁に掲示する等、季節を感じられるように支援しています。毎日換気や掃除を行い、加湿器を設置する等、清潔を保ち心地よく過ごせるよう温湿度管理を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	実施できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できています。	ホームとしてタンスを準備しており、入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう説明し、テレビや机、仏壇等を持参している方がいます。換気や掃除は毎日行い、家族の写真やホームのレクリエーションで作った作品を飾ったり、ラジオやラジカセを持ってきてラジオを聞いている方もおり、その人らしく快適に過ごせるよう支援しています。また生活習慣から布団で休みたいときに対応できるように一部屋分の畳を準備しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	実施できています。		